

第9講 ミケーネ文明の勃興

ミケーネ時代の位置

新石器時代 前 6000/5000 年頃-前 3600 年頃

オリエントから牧畜・農耕の文化伝播

ギリシアにおける農業の開始

開拓と人口増加

幾何学様式の彩文土器

前期青銅器時代（前期ヘラディック） 前 3600 年頃-前 2100 年頃

南部ギリシアの発展

巨大遺跡の出現（エウボイア島のマニカ：1 x 2 k m）

巨大な公共建造物（ティリンスのレント・バウ、レルナのタイル
の家、エギナ島のコロシナの白の家など）

土器の特徴

嘴壺（注口器）、ソースボート（舟形ソース入れ）、フライ
パン型土器、

高脚台付き盃（カリケー）の出現と普及

高速の回転轆轤の使用（EHIII）

前 2500 年頃の破壊

原ミニュアス式土器の出現

中期青銅器時代（中期ヘラディック） 前 2100 年頃-前 1600 年頃

遺跡数の減少と人口の縮小

アプシダル・ハウス（壁が薄く建築物としての耐用年数が短い）

ミニュアス式土器（黒色、無地、表面につやあり）

前 1650 年頃

竪穴墓やソロス墓の出現

黄色ミニュアス土器

後期青銅器時代（後期ヘラディック：ミケーネ時代）

前 1600 年頃-前 1050 年頃

各地に宮殿・城塞・館

ソロス墓（ミケーネのアトレウスの墓など）と堅穴墓（ミケーネのAおよびB）

壁画、豊富な黄金製品、水晶細工の盃、ファイヤンスや琥珀のビーズ、象牙細工のプレートなど

宮殿様式の壺、鍔壺、キュリクス、リュトン

活発な牧畜と農耕

対外交易（エンポリオンや植民：ミレトスや南イタリア）

錫の輸入（トスカナ地方／オリエント／チェコ／コーンウォール地方）

先史時代における人口の極大

前 1250 年頃の変調

地震、キュクローペス式城壁の出現、宮殿内部の倉庫機能の増大

前 1200 年頃のカタストローフと再建

宮殿の破壊

集落パターンの変化

岬近くや丘の周辺に集住

ティリンス：人口 2 万人規模の大都市へ

ダム建設と河道の付け替え